

第14回全国市議会議長会研究フォーラム in 高知 報告

- 1 開催日 令和元年10月30日(水)・31日(木)
- 2 場 所 高知ちばさんセンター
- 3 主催者等
 - (1) 主催者 全国市議会議長会
 - (2) 後 援 総務省
 - (3) 参加議員 佐藤寿宏、福島正美、中山ひと美、松本あきひろ、江口元気、山本みちよ、くぼた学、伊藤大輔、わたなべ忠司
 - (4) 随行者 小林事務局長
- 4 進行内容
 - (1) 1日目
 - 開会あいさつ
 - ・全国市議会議長会会長
 - ・高知市議会議長
 - ・高知市長
 - 基調講演
 - ・講 師 中島 岳志 氏(東京工業大学リベラルアーツ研究教育院教授)
 - ・テーマ 「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」
 - パネルディスカッション
 - ・コーディネーター 坪井ゆづる 氏(朝日新聞論説委員)
 - ・パネリスト 高部 正男 氏(市町村職員中央研修所学長)
 - 横田 響子 氏(株式会社コラボ代表取締役／お茶の水女子大学客員准教授)
 - 古川 康造 氏(高松丸亀町商店街振興組合理事長)
 - 田鍋 剛 氏(高知市議会議長)
 - (2) 2日目
 - 課題討議
 - ・コーディネーター 坪井ゆづる 氏(朝日新聞論説員)
 - ・事例報告者 滝沢 一成 氏(上越市議会議員)
 - 久坂くにえ 氏(鎌倉市議会議長)
 - 小林 雄二 氏(周南市議会議長)
- 5 基調講演の概要

「現代政治のマトリクスーリベラル保守という可能性」のテーマで講演。

 - ・政治をマトリクス表にて、縦軸(Y軸)をセーフティネット強化(リスクの社会化)と

自己責任（リスクの個人化）、横軸（X軸）をリベラル（自由主義）とパターナル（父権的）を表し、過去50年の自民党政権の立ち位置の変化、希望の党がなぜの失敗したかについての考察。

- ・ラディカルデモクラシーとポピュリズムの視点で立憲民主党フィーバーと支持率急落、れいわ新選組フィーバーの要因。
- ・リベラルの逆説として「寛容」としてのリベラル、個人の価値の領域には土足で踏み込めない。「消極的自由」と「積極的自由」の自由のパラドクス。
- ・保守とは何か？カール・マンハイム「保守主義的思考」、エドモンド・バーク「フランス革命についての省察」からの引用、人間は間違えやすい動物。また保守するための改革、大切なものを守るためには変わらなくてはならない。改革とは過去から相続した歴史的財産に対する永遠の微調整。
- ・リベラル保守とは合意形成（落としどころ）「政治は60点でなければならない」。 等

6 パネルディスカッションの概要

「議会活性化のための船中八策」

現状認識として自治体議会について指摘される問題点、

- ・投票率の低下・・・議会への無関心
- ・無投票当選の増加・・・議員のなり手不足
- ・議員構成の偏り・・・女性、若者が少ない
- ・政務活動費の不正使用等・・・議員の不幸事が挙げられている。

が挙げられている。

また住民目線から「議会（議員）は何をしているのかわからない」という声が最も多い状況、この改善に向けて各自治体議会では議会基本条例の制定や広報、市民との意見交換会・市政報告の実施等、様々な努力をしているが決定的な改善には程遠い。

今後の自治体議会のあり方や議会に必要な事、議会改革の具体的なアイデアについて、議員の待遇面では兼職・兼業規制の弾力化や休日・夜間議会の開催、議員待遇の改善や厚生年金への加入等、若者が希望を持ち、子育て世代の女性が働きやすい環境や待遇が必要。そして議員は市民にリスペクトされる存在でなくてはならないという意見。

議会に必要な事は中長期視点で人口減を前提に街の目指す方向を議論、多様な人材でガチンコ会議を実施、住民や参考人などとの会議で接触機会を増やす、多様な情報発信、制度的視点では地方選挙の統一化や労働法制の見直しについて意見があった。

7 課題討議の概要

「議会活性化のための船中八策」

前日に引き続き同じテーマで事例報告、

・「市議を目指しやすい環境整備への提言」上越市議会

上越市議会議員選挙（H28.4）定員 32 人、立候補者 34 人うち女性出馬 1 人、当選時 40 歳未満の議員は 3 人、現在（R1.9）は女性議員 0 人、議員平均年齢 63 歳と高齢化、なり手不足の危機感から議長提案で検討委員会を設置、「市議を目指すことを阻害する」現状の要因など把握し、その改革案を策定することを目的とした。

市民との意見交換会では「目指せない」のではなく「目指さない」「議会のことは知らないし知りたいとも思わない、もとより興味がない」、「やりがいが全く感じられない、存在価値が感じられない→そんなものに誰になるか」という意見。市民が見たこと自体ない、議会の魅力を見せ・魅せなきゃ始まらない。→「議会の見える化が第一だった！」につながる。やる気にさせる「こころの問題解決」阻害要因を取り除く「物理的問題解決」の 2 つのステップに分け、議会の存在価値・やりがい・おもしろさ、選挙費用・報酬や身分保障・ひとへの不安、地域の理解・家族の理解・女性特有の壁、等を細かく洗い出し、現・元議員アンケート、ホワイトボードミーティング、市民との意見交換会を 1 年を通して重ね、5 つの大項目と 19 の小項目で構成する提言を答申。これをきっかけに議会改革を一層進める機運が高まり「市民に関心をもってもらい、理解してもらい」「女性へのアプローチ」の観点で早急に取り組むべき 7 点を選出。

- ① 議会傍聴の改革・活性化 ② 模擬議会、議会体験学習の実施
- ③ 意見交換会の改革 ④ 広報 PR の充実 ⑤ 選挙マニュアルの作成
- ⑥ 議員報酬の適正化 ⑦ 女性フォーラムの開催

それぞれ継続検討、実施を行っている。

まとめとして、見える議会・魅せる議会が住民協働力、行政との対峙力、立法力、情報収集発信力の揃った議会となり、議会改革推進こそが議員を目指す人々を獲得する最大の力である。

・「女性議員の現状の視点」鎌倉市議会

鎌倉市議会議長である久坂議長自身の任期中の経験から、会議規則に「出産が欠席事由として規定されていない」「期間の明記もない」、会議の運営に「多様なバックグラウンドを抱える議員への配慮はない」「行政職員への影響」といった課題が顕在化。地方議会における男女の議員比率と年代別女性議員比率を見てみると女性が少なく子育て世代の比率も少ないことが分かった。現在の潮流として「女性活用推進法」「政治分野における男女共同参画推進法」の施行がされているが全国的に地方議会における産前産後休暇制度、育休休暇制度の明文化がされている自治体は少なく、女性の政治参画に壁がある。

環境整備に向けて ① 出産に伴う議会の欠席に関する規定について取得期間及び運用についての考え方を明示 ② 子の看護休暇に関する規定の整備 ③ 配偶者出産休暇の取得 ④ IPU「ジェンダーに配慮した議会のための行動計画」に則った、議会における

仕事と家庭の両立支援のためのインフラ及び議会文化の整備又は改善 が必要である。

・「周南市議会事例報告」周南市議会

周南市は H15.4/21 に 2 市 2 町（徳山市、新南陽市、熊毛町、鹿野町）の合併により誕生、人口約 14 万 3 千人、面積 656.29 km²。合併時は在任特例により議員 78 名でスタート、議員報酬額は旧 2 市 2 町それぞれで大きくバラツキがあり報酬審議会は 1 市 4 報酬制度を答申。しかし議長副議長が市長に対し議会の総意として報酬額の速やかな一本化（一番高いところに合わせる）を要望し、報酬条例改正案を H15.12 の定例会に上程、報酬審議会委員 6 名が市長に対して抗議の会見及び市長への抗議文を提出。定例会において在任特例期間中は報酬額を 10%減額するという修正を加えて報酬額を一本化する条例改正案が可決。一方で同 12 月に議会解散の是非を問う住民投票の実現に向け、市民グループ「周南のよあけを導く会」が発足。翌年 1 月に議会解散請求に向けた署名活動が行われ 70,915 人分の署名を選挙管理委員会に提出。H16.3 定例会最終日に動議による自主解散決議案が提出されたが否決、同年 4 月「周南のよあけを導く会」が議会解散請求本請求、議会解散を問う住民投票を H16.5/16 に実施。解散投開票（投票率 46.55%、賛成 52,120 票、反対 5,504 票）そして即日解散。H16.6/20 に出直し選挙を実施。（現在の議員数 30 名うち女性議員 4 名）

この議会解散の経験を教訓として以降、市民により開かれた市議会を目指し「議会改革」に積極的に取り組んでいる。例えば各常任委員会が市民と懇談する委員懇談会（ミニコン）を多数開催し、議会提案による政策条例の制定を実現。また行政監視機能の充実として、所管事務調査の積極的な活用、所管事務調査による「指定管理者制度に関する調査」の実施、「100 条委員会」の開催を行った。

8 所 感

昨今の投票率の低下や議員のなり手不足、若者や女性の政治への参画が少ない等の課題は全国共通、特に地方議会では顕著なようで、それぞれの自治体で様々な取り組みを行っている様子。今回のパネルディスカッションと事例報告の中でも要因や方法論について様々な意見が出されたが、立川市では議会基本条例をはじめ、その検証や市民との意見交換会の工夫など先進的に取り組んでいる方だと感じた。今回最も心に残った意見で「議会（議員）は何をしているのかわからない」「議員は市民にリスペクトされる存在でなくてはならない」の 2 つの言葉。もっとわかりやすい議会報告や市民を巻き込んだ市政運営、興味をもってもらおう努力を多用な層で更にしていかなければならない。そして議会（議員）を理解していただき認めていただくことが必要。そのためには議会改革を通して時代にあった手法の様々な工夫を考え、そして実行していかなければならないと思う。立川市でもさらに他市先進事例を研究し、議会改革を前に進め「魅せる議会」を目指したい。